韓国 5	江陵青少年カウンセリング福祉センター

災害からの回復と日常生活への復帰を支援する心理的サポートを提供する「訪問特別カウンセリングセンター」

キーワード	災害、日常生活への復帰、メディアセラピー、緊急介入、訪問カウンセリング
活動の目的・目標	１．災害や事故など、様々な緊急事態にさらされた青少年に対して、それぞれに合わせた支援サービスを提供する。 ２．危機的状況から青少年を安全に保護し、日常生活への円滑な復帰を支援するために緊急介入を行う。
活動の対象者	１．江陵の山火事によって直接的または間接的被害を受けた子どもと青少年 ２．江陵の山火事の被災者（子どもと青少年） ３．江陵の山火事で帰宅できなくなり、市が提供する施設に現在も入所中の家族の子どもと青少年

活動内容

Ⅰ. 特別カウンセリング室を開設する前に知っておくべきこと：彼らのニーズを理解する

1) 大規模火災の経過と状況への対応
　2023年4月11日午前8時30分頃、江原道江陵市南谷洞4において強風による大規模火災が発生し、森林120ヘクタールが焼けた。火災は多くの民家やペンションが並ぶ江陵鏡浦の観光地の近くで発生し、甚大な人命の損失と物的損害を生む結果となった。

【江陵の山火事の写真（江原デイリー）】

2) 山火事が発生した際に最初にすべきことは、センターを利用する青少年の山火事による被害状況を把握し、江陵市教育局と江陵市と協力して、被災した青少年の被害の程度を特定することである。

3) 特別カウンセリングセンターの運営を始める前に、山火事の被害の程度が特定され、青少年教育機関との緊急対応会議が開催された。

活動内容

【緊急対応会議】

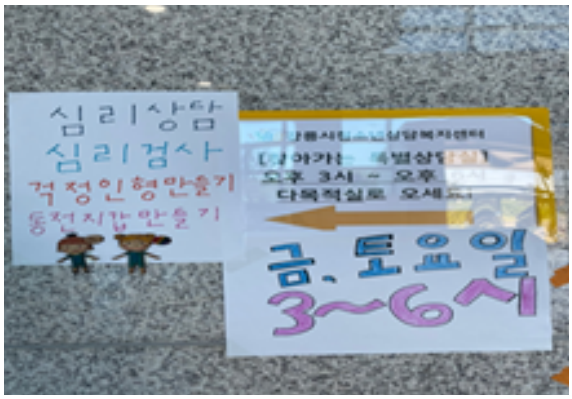
4) 様々な災害状況に対して、市および様々な関連組織から多くのサービスや支援が提供された。被災者が自宅にすぐに戻れないため、江陵グリーンシティ体験センターに仮住まいする家族の子どもとティーンエージャーを対象に、江陵青少年カウンセリング福祉センターが開設された。

II. 特別カウンセリングセンターの設営中：関連組織との協力および準備

1) 江陵市の人口家族部青少年課と密に協力して、被災家族の子どもや青少年のニーズを特定した。
2) 江陵グリーンシティ体験センター（Ijen）に事前訪問を行い、環境評価を行った。子どもと青少年が訪問・利用しやすいように、積極的に施設のプロモーションを行った。

III. 特別カウンセリングセンターの現場の運営

日時：2023年5月19日から6月10日の毎週金曜・土曜（2日間）15:00～18:00
場所：江陵グリーンシティ体験センター　Izen多目的室
対象：子どもと青少年



1）4月11日に発生した江陵の山火事の後、5月19日までのおよそ1か月間、センターはカウンセリング 支援を実施した。

2）この プログラムでは、青少年に心理的安全性を感じてもらい、ストレスを軽減させるために、アートセラピーを用いた。子どもたちは「心配人形」を作りながら、自分の現在の心配ごとについてよく考え、それをはっきりと言葉にし、自分の感情や考え、課題を表現するように促された。簡単な絵を描いて、それを心配人形とする参加者もいた。
子どもたちは、このプロセスで、人形を表現の媒体として使うことによって、山火事による日常生活の変化から生じる困難を、自然に共有することができた。また、自分たちの苦しみについて安心して話す機会を得て、不安定な情緒や怒り、恐怖といった気持ちを表現することができた。

韓国 5	江陵青少年カウンセリング福祉センター

活動内容

（活動の写真1）

アートセラピー活動によって、心理的ストレスが軽減し、情緒も安定した。

1) 一時避難所へのアウトリーチプログラムは、適切な心理的安定性を提供し、子どもの世話のストレスから解放することで、子どもたちだけでなく、保護者にとっても支援となった。子育てにすでに困難に直面していた保護者たちは、山火事によって日常生活が破壊されたことによりさらに困難が悪化したことについて語った。例えば、子どもたちが以前よりイライラするようになり、夜中に目を覚まして家に帰りたいと言うようになり、どう慰めればいいのか分からないと言う。保護者自身が家に帰りたい一方で、子どもたちの不安が増すことを心配し、大人としての苦しみを話してくれた。
2) 訪問特別カウンセリングセンターは、適切な指導と介入を行うことによって、すでに心理的な問題を持つ子どもたちがさらに深刻な問題に陥ることを防ぐ助けにもなった。感情的に弱いところのある子どもを持つ保護者は日常生活への適応がより難しくなっていたが、様々なメディア活動に参加することによって、回復の兆候が見え始めた。
3) 子どもたちの心理的な問題がこれ以上悪化しないようにするために、1388ホットラインを使ってフォローアップのケアが提供され、通常の生活にスムーズに戻れるように支援した。

（活動の写真2）

活動の特徴

1．江陵の山火事によって直接的または間接的な被害を受けた子どもや青少年とその保護者に、心理的トラウマに対処するための支援が行われた。様々なアートセラピー活動を通して、心理的ストレスを軽減し、感情的な困難を表現してもらった。子どもの心理的安定は保護者の心理的安定につながる。子どもと一緒に来所した保護者のカウンセリングを行うことで、保護者も心理的な安らぎを見つけることができた。

韓国 5	江陵青少年カウンセリング福祉センター

活動の特徴

2．青少年安全ネットワークとつながることで、日常生活への円滑な復帰を支援した。これは一度だけのカウンセリングプログラムではなく、計画段階で関係組織との綿密な話し合いを行うことで実行された。話し合いには、プログラムのタイミングや方法、対象者、運営戦略が含まれた。

3．フォローアップケアを通して、個人が心理的安定を得られるように支援が提供された。これには、進行中の支援を確実なものにするための定期的なフォローアップケアに加え1388ホットラインを使ったカウンセリングの紹介や治療支援サービス、専門家によるケースマネジメントも含まれた。

参加者の声、感想

○4週間毎日参加した幼い参加者による振り返り：
「ここに来たときにはお姉ちゃんと遊んでいるような感じがして、好きだった。最初は家に帰りたかったけれど、絵を描いたり、先生と話したりするのは面白くて、気分がよくなった。心配人形を作ったり、絵を描いたりするのも楽しかった。財布を作るのは少し難しかったけれど、それでも好きだった。」

○子どもを毎週連れて来ていた母親による振り返り：
「最初は、子どもたちも慣れない新しい場所で過ごすことを難しいと思っていたようだが、キャンプのようでもあり、新しいことだったので楽しんでいた。ところが、時間が経つにつれ、難しいと感じるようになってきたようだ。保護者として、子どもの世話をすることで私も疲れ切っていたが、このプログラムに参加することで、私自身のケアをしてもらっているように感じ、これがとてもよかった。私たちがプログラムに参加した日には、帰宅した子どもたちが楽しそうにおしゃべりし、穏やかに眠りにつくのを見てとてもありがたく感じていた。山火事で多くの大変な目にあったが、皆さんのような方からの支援が私たちに大きな力を与えてくれた。本当にありがとうございました。」

団体・組織情報

【団体・組織名】 江陵青少年カウンセリング福祉センター
【設立年】1999年
【所在地】 2nd floor of the Youth Training Center, 72-21, Jonghapundongjang-gil, Gangneung-si, Gangwon-do, Korea
【団体概要】
江陵青少年カウンセリング福祉センターは、政府の女性家族部のもと、青少年のカウンセリングを専門とする組織である。その運営は、江陵市から委託されて、非営利団体である大韓仏教曹渓宗のMunsu青少年会が担っている。同センターは、専門家によるカウンセリングや地域の専門的な人材とつながりを持つ青少年セイフティーネットシステムを運営する。それ以外にも、青少年ホットライン1388や青少年コンパニオン、校外青少年支援センター、青少年ケアカフェ「Solhyang Friend」を運営する。
【URL】https://www.gn1388.or.kr

担当者情報

【担当者名】 Kwon Yongkyung
【所属】江陵青少年カウンセリング福祉センター
【E-mail】 gn1318@hanmail.net
【電話番号】 033-655-1388